

「教育臨床総合研究24 2025研究」

## 令和6年度の基礎体験領域の取り組み

A Report on the Approaches in the Educational Support Fieldwork Area in 2024

村 尾 美 幸*	錦 織 稔 之*
Miyuki MURAO	Toshiyuki NISHIKORI
上 代 裕 一*	飯 島 仁*
Yuichi JODAI	Hitoshi IJIMA
小 橋 達 也*	長 岡 美 沙*
Tatsuya KOBASHI	Misa NAGAOKA
原 丈 貴**	
Taketaka HARA	

### 要 旨

2020年度から続いたコロナ禍により、教育支援センターの諸活動も大きな影響を受けてきたが、活動制限の規制緩和にあわせて、できる範囲で少しづつ本来の活動形態を回復させてきた。基礎体験活動の募集件数や参加学生の述べ人数は、昨年度の時点でコロナ禍前の水準まで回復しており、今年度も同程度の規模で実施することができた。その中で、対面での活動が実施できずに昨年度まで中止が続いていた「基礎体験活動合同説明会」を、令和6年4月に2019年度以来5年ぶりに開催することになり、これによって令和6年度は必修セミナーの全てを対面で実施できた年となった。各学年を対象とした必修セミナーの運営形態については、コロナ禍以前の実施形態である一括開催に戻す案も考えたが、教育効果を高められる適切な開催規模や学生アドバイザーの確保の点から協議し、全学年一律の運営形態とするのではなく、学年によって形態を変えた実施方法とすることとした。また、令和6年度入学生からは、新しい基礎体験活動のカリキュラムが始まることになり、中でも卒業要件の時間数が800時間に縮小されたこと、基礎体験活動において100時間の学校体験活動が必修となったこと、が大きな変更点である。その影響もあり、令和6年度入学生はこれまでの学年と比べ、1年次で学校現場に活動に出た学生の割合が高くなっている。教育効果をより高められるようプラスアップしながら検討を進める1年であった。

[キーワード] 基礎体験活動 新カリキュラム 教職志向性向上

\*島根大学教育学部附属教育支援センター

\*\*島根大学教育学部保健体育科教育専攻（附属教育支援センター長）

## I はじめに

1年間の教育支援センターの取り組みを毎年この研究紀要に掲載する中、近年はコロナ禍の影響に触れざるを得ない状況が続いている。昨年度は、令和5年度の取り組み実績が、ほぼコロナ禍前の状況に戻りつつあることを報告した。また、令和5年度に必修セミナーとして唯一実施できなかった「基礎体験合同説明会」については、令和6年度の開催に向けて検討中であることも併せて報告した。

令和6年度に入り、4月の入門期セミナーを開催するにあたって、2020年度より開催が中止となっていた「基礎体験合同説明会」を対面で開催できたことで、必修セミナーとして位置づけられていた取り組みが、2019年度以来5年ぶりに全て対面で実施できた年となった（令和6年度入学生からは、基礎体験合同説明会を入門期セミナーの一部として実施することに変更）。過去に行われていた基礎体験合同説明会を経験したことのある支援センター教員は1名のみであったことから、過去の資料を参考に試行錯誤しながらの準備であった。新入生が受入事業所のスタッフの方々から直接活動内容について説明を受ける機会を提供できた点は、基礎体験活動のイメージをつかむ上で有用であったと考えられる。実際に、令和6年度入学生は、これまでの学年の1年次前期の活動状況と比べて、基礎体験活動への動き出しが早い傾向がみられ、基礎体験合同説明会が、初めての基礎体験活動に向けた最初の一歩を踏み出す後押しとなっていたことがうかがえる。

また、令和6年度入学生からは、新たな基礎体験活動のカリキュラムが運用されることとなり、今後の数年間は、新旧2本のカリキュラム（【表1】参照）を同時並行で進めて行くことになる。特に、卒業要件の体験活動時間数が1000時間から800時間に縮小されたこと、基礎体験活動（選択）において100時間の学校体験活動が必修となったこと、は大きな変更点である。

【表1】新しい基礎体験活動カリキュラムの主な変更点

	R 5年度まで（旧カリ）	R 6年度から（新カリ）
卒業要件時間数	1000時間	800時間
基礎体験領域（必修）の活動時間数	100時間	100時間（学修ポートフォリオを新たに組込む）
入門期セミナー	22時間（1泊2日のセミナーとして設計）	8時間（大学で1日の開催とし、従来の基礎体験合同説明会を組込む）
基礎体験領域（選択）の活動時間数	540時間	340時間
学校体験活動時間数	規定無し	100時間以上必修
学校教育実習Ⅲ、Ⅳ参加資格	基礎体験活動（選択） 120時間以上	基礎体験活動（選択） 100時間以上

コロナ禍で実施形態が以前の形態と変わったセミナーも多く、特に、1年次最初の入門期セミナーについては、もともと1泊2日で実施されていたものが、コロナ禍により宿泊での実施は困難になったことから、学内開催、且つ1日開催に切り替え運営を続けてきた。そのため、カリキュラム上では22時間の活動プログラムとなっていたものの、実際の活動時間とはズレ

が生じており、不足分を基礎体験活動で補う対応を取ってきた。新しいカリキュラムでは、入門期セミナーをここ数年の実施形態に合わせて8時間認定としており、これによって、カリキュラム上の認定時間と実際の活動時間が、再び合致する状況に戻ることになった。

1, 2, 4年生を対象とした9月の必修セミナーについては、コロナ禍をきっかけに分散開催することになっていたため、元の一括開催に戻すことも検討した。しかし、学生の4年間を見通した中での学修状況や教育効果、および本センター教員のサポート体制や上級生アドバイザーの人数等を考慮した結果、4年生については一括開催に戻すこととし、1年生と2年生については分割開催を維持することとした。単に元に戻すのではなく、学生にとってより良い実施形態を模索した上で判断である。

実習セメスターについては昨年度より復活し、今年度も希望者を対象に母校での学校体験活動を実施した。昨年度と同程度の人数の学生が、母校での学校体験活動に参加することとなつたが、数名の学生において、主専攻で行われる必修の授業と日程が重複する事例がみられた。そのため、次年度以降は事前に各専攻とも連携を取りながら、指導を進めていくことが求められる。

必修セミナーの時間認定にあたっては、コロナ禍の影響が残っている学年もあるが、基礎体験活動のカリキュラム運営は、令和6年度から通常体制に戻ったと言える。本報告は、令和6年度のセンターの取り組みを振り返るとともに、新旧2つのカリキュラムを並行して進めていく中で、より質の高い学びに繋がる基礎体験活動の在り方について検討するものである。

## II 令和6年度の取り組み

### 1. 基礎体験活動

【表2】基礎体験活動への参加実績（過去10年間）

	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06
受入団体数（団体）	181	184	183	192	188	93	133	160	192	202
募集活動数（件）	392	391	387	379	358	160	233	293	389	404
学生参加活動数（件）	323	337	327	319	303	147	203	278	363	335
参加学生延べ人数（名）	2,223	2,305	1,818	1,913	1,985	1,554	1,691	1,868	2,058	1,950

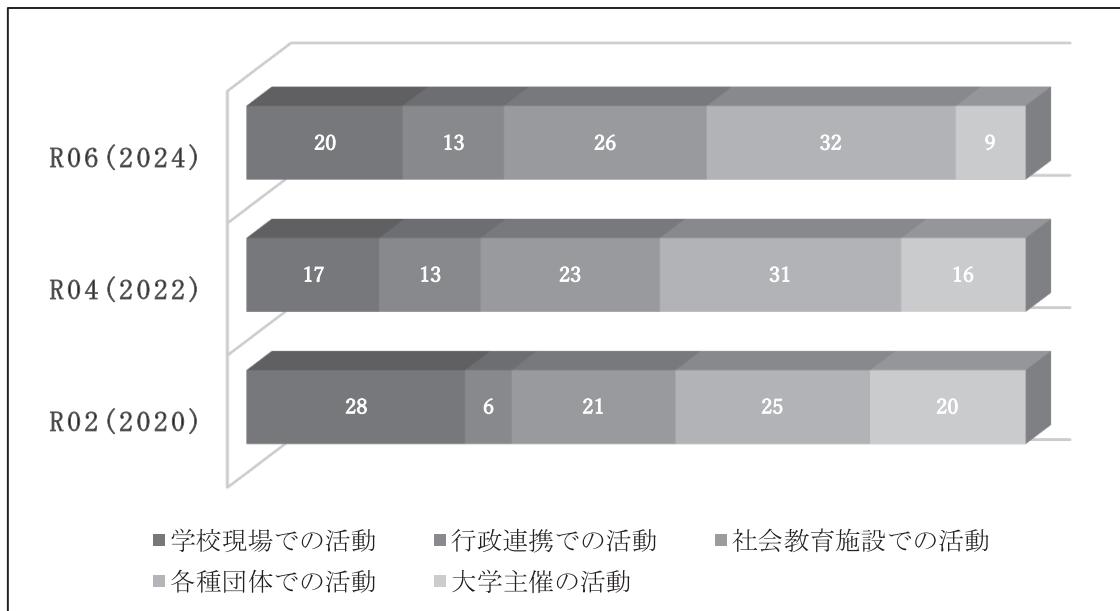
#### (1) 基礎体験活動の参加実績（専攻別体験等を除く）

今年度はカリキュラムの改訂により、基礎体験活動の卒業要件が800時間となる大きな転換期を迎えた。卒業要件が200時間減になっても基礎体験活動が低迷することなく、学生の基礎体験活動への参加意欲を向上させ、学生にとって多様な体験ができる活動の機会を十分に確保することが喫緊の課題であった。平成16年度改組により基礎体験活動を卒業要件とするようになって以降、過去10年間の実績は【表2】に示すとおりである。（「参加学生延べ人数」が平成29年度を境に大きく減少しているが、これは同年度から教育学部の入学者募集定員を2割程度削減（170名→130名）したことが要因である。）令和5年度以降、宿泊活動や実習セメスターの再開により、受け入れ団体数と募集活動数は大きく増加している。今年度の受け入れ団体数は202件、募集活動数は404件と過去10年間で最多となった。このように受け入れ団体数と募集活動数を大きく増加させることができた要因として、令和5年3月に再開した「基礎

体験活動連絡協議会」、また令和6年度に5年ぶりに再開した「基礎体験活動合同説明会」による各受入先との連携が挙げられる。「基礎体験活動合同説明会」では、21団体の事業所の協力により、新入生が対面で基礎体験活動の具体を知る機会を得た。その後の新入生の活動取組状況は9月時点で一人平均39時間であった。同時期の昨年度の1年生の平均は28時間、一昨年の平均は7.8時間であることからも、「基礎体験活動合同説明会」が新入生の基礎体験活動への活発な取り組みに大きな成果をもたらしたと言えよう。

今年度の基礎体験領域の特徴として、学校教育体験に取り組む学生の早期化、異校種での活動の活発化が挙げられる。カリキュラムの改訂に伴い、基礎体験活動（選択）において学校体験が必修100時間となったが、この学びを保障する場として、主に「松江市内小学校支援活動」「しまねの教員魅力☆5 days体験プラン」「附属義務教育学校支援活動」「鳥取県東部地区母校等支援活動」「鳥取県中部地区母校等支援活動」「米子市小・中学校教育支援活動」などの活動が確保されている。「しまねの教員魅力☆5 days体験プラン」は令和5年度より始まった1・2年生対象の取組で、昨年度は島根県内の小中学校・義務教育学校5校で実施、延べ9名の学生が参加していた。今年度は、島根県内の特別支援学校も加わった9校で延べ23名の学生が参加し、活動の拡大を見せていく。このような活動の場の充実により、今年度末には1年生136名中延べ114名が学校教育体験活動に参加する状況であった。大学生活の早い時期に学校現場での体験を積み重ねることで、さらなる教職志向の維持・向上へとつなげたい。また異校種での活動状況として、鳥取県東部・中部・米子市内の学校体験活動には延べ39人が参加のうち10名が異校種で複数の活動に取り組んでいる。「実習セメスターにおける学校教育体験活動」（「スクール・インターンシップ」より改名）においても59名中15名が異校種での活動に取り組んでいた。その中でも特別支援学校での体験を希望する学生の増加が見られた。本学では特別支援学校の教育実習が4年次に実施されることもあり、特別支援学校での体験のニーズは今後さらに増加していくことが予想される。このように学生が自分の適性を確かめたり、進路選択の一つの機会としたりする上でも、異校種で複数の学校教育体験活動に参加できる環境をさらに充実させ、整備していく必要があると考える。

なお、【図1】は基礎体験活動の受入団体について種別ごとの割合を示したグラフである。行政連携の活動は主に学校教育に関するものなので、学校体験・社会教育施設での体験・民間団体での体験がおよそ3割ずつとなっている。全体としてはバランスよく様々な活動に取り組んでいると推察される。しかし、学生によっては特定の活動や取り組み易い分野のみに参加している状況も依然として残っている。今後も学生たちが自分の強みに磨きをかけたり、活動を通して気付いた弱みを克服したりすることができるよう、各受入先との連携も密にしながら、多岐にわたる種別の活動を提供していきたい。そして、学生たちのさらなる教師力の向上を一層支援していきたい。



【図1】 基礎体験活動の参加種別の変遷（過去5年間）

## (2) 基礎体験セミナー等

### ① 基礎体験セミナー等の対応と実績

新たなディプロマ・ポリシー（全学DP）とカリキュラム・ポリシー（全学CP）が策定されたことを受け、教育学部においても新たな方針の下で教育課程を改編した。その編成過程の中で、基礎体験セミナー等についても見直しを行い、今年度の新入生から新たな構成で実施することとなった。今年度の対応と実績は【表3】のとおりである。

【表3】令和6年度基礎体験セミナー等（必修）の対応と実績

学年	セミナー名	認定時間	実施日時
1	入門期セミナー	8時間	4月20日（土）10：00～16：30
	スタートアップセミナー	3時間	9月27日（金）13：00～15：30, 16：00～18：30
1・2	基礎体験交流会	2時間	1月30日（木）13：00～14：35, 14：55～16：30
2	充実期セミナー	2時間	9月26日（木）13：00～14：20, 14：55～16：15
3	応用期セミナー	3時間	11月29日（金）13：15～16：00
4	発展期セミナー	2時間	9月24日（火）13：00～14：20

### ② 入門期セミナー

本セミナーは、入学して間もない新入生を対象に実施するもので、同級生や上級生との親睦を深めるとともに、「1000時間体験学修」について理解し、学修意欲の向上を図ることを目的としている。詳細は以下のとおりである。

## 入門期セミナー 2024の実施概要

### 【1. 目的】

- (1)新入生同士の親睦（横のつながり）や上級生との親睦（縦のつながり）を促すとともに、新入生の心配・不安・疑問等の共有・解消を図る。
- (2)100時間体験学修「基礎体験活動（選択）」に係る内容や参加手続き等の理解や学修意欲の向上を図る。

### 【2. 対象】 1年生全員 136名

※上級生アドバイザー（4年生） 24名

### 【3. 日時】 令和6年4月20日（土）10：00～16：30

※「学校教育実習Ⅰ」のグループを活用。各グループの学生数は5～6名。

※参加学生……出席とアンケート回答により8時間認定。

※不参加学生…補講（センター長挨拶の録画視聴、基礎体験領域について）とアンケート回答により1時間認定。

### 【4. 会場】 大学会館3階 大集会室

### 【5. 日程】

10	10	11	11	12	13
..	..	..	..	..	..
00	15	15	25	15	15
開 会 行 事	【研修1】 基礎体験領域について	休 憩	【研修2】 アイスブレイク レクリエーション	昼食・休憩	
13		15	15	16	16
..		..	..	..	..
15		00	15	20	30
閉 会 行 事	【研修3】 主な基礎体験活動の紹介＆グループ協議 (14:00～14:10休憩)	移 動	【研修4】 基礎体験活動 合同説明会		

### 【6. 内容】

#### (1)開会行事 【15分】

- ①挨拶（教育支援センター長の話）
- ②趣旨・日程説明
- ③教育支援センタースタッフと上級生アドバイザーの紹介

#### (2)研修1 「基礎体験領域について」 【60分】

○基礎体験活動（選択）への参加手続きやきまり、マナー等の説明

#### (3)研修2 「アイスブレイクとレクリエーションゲーム」 【50分】

○「人間bingo」「い・ど・だ・どゲーム」「糸」の3つのレクリエーションゲームを、上級生アドバイザーが主導して実施。

#### (4)研修3 「主な基礎体験活動の紹介＆グループ協議」 【95分】

- 学校現場における活動2件、行政連携における活動2件、社会教育施設での活動2件、各種団体における活動2件について、上級生アドバイザーがプレゼンテーションを実施。
  - グループ協議では、上級生アドバイザーが進行役を務め、新入生から感想や不安・疑問を聞き出す。上級生アドバイザーは自分の体験談も交えながら、新入生の不安・疑問の解消に努める。
- (5)研修4「基礎体験活動合同説明会」【65分】
- 第2体育館に移動し、受入先事業所が設置したブースを回って、実際にどのような活動を行うのかを知る。
- (6)閉会行事【10分】
- 学生の感想発表
  - 上級生アドバイザーからのメッセージ
  - センター長挨拶
  - 諸連絡



入門期セミナーグループ協議の様子



入門期セミナー合同説明会の様子

以下、教職員の振り返りと学生の感想から本セミナーの成果を示す。

#### 教職員の振り返り（一部抜粋）

- 上級生アドバイザーが進んで役目を見つけて準備や片付けに協力していた。
- 入門期セミナーに合同説明会を挿入したのは、学生のイメージの具現化につながり成果があった。
- 入門期セミナーと合同説明会の同時開催だったので、教員とアドバイザーの動きを整理する必要があった。

#### 学生の感想（一部抜粋）

- 1000時間体験学修について、手続きの仕方や具体的な内容、注意する点などを聞けて良かった。特に上級生の体験を聞いたり企業の方々のお話を聞いたりして、1000時間体験学修で座学では学べない経験や喜びをたくさん積んでいきたいと感じた。一つ一つの体験に目標とやる気を持って、1000時間以上を目指して頑張っていきたい。
- 今まで1000時間体験というものは知っていたけど、どんなことをどうやってするのかなど詳しいことは知らなかったので、今回お話を聞いてどんなものかわかって良かった。同じ学部の先輩と関わる機会もあまりないのでたくさんの有力情報を聞いて嬉しかっ

た。また、体験に行く先の方々のお話を聞いて、どの体験活動も楽しそうでやってみたいものが多く、選ぶのが大変そうだと感じた。

○先輩方の実体験を交えたお話を聞くことができて今まで1000時間体験学修に関して抱いていた不安などを解消することができた。事業所の方々のお話を聞くことができて、体験学修の具体的な方向性を見ることができた。

### ③ スタートアップセミナー

本セミナーは、1年生が対象の基礎体験セミナーである。入学してから半年が過ぎたところで、初めて取り組んだ基礎体験活動（選択）について振り返り、今後の活動へのより良い見通しをもつことを目的として実施した。詳細は以下のとおりである。

#### スタートアップセミナー 2024 実施概要

##### 【1. 目的】

- (1)入学時からの基礎体験活動の取り組みを振り返ると共に、活動参加への心構えや手続き等の再確認を行う。
- (2)小グループでの体験発表会等を通して、体験活動で得られる多様な学びや課題を共有すると共に、今後の活動に向けて意欲を高める。

##### 【2. 対象】 1年生全員 136名

※上級生アドバイザー（4年生） 12名

##### 【3. 日時】 令和6年9月27日（金）

- (1)1回目（A・Bクラス） 13:00～15:30
- (2)2回目（C・Dクラス） 16:00～18:30

※「学校教育実習Ⅰ」のグループを活用。

※各回は12グループで構成し、各グループの学生数は5～6名。

※参加学生……出席とアンケート回答により3時間認定。

※不参加学生…補講（センター長挨拶の録画視聴、全体指導）とアンケート回答により1時間認定。

##### 【4. 会場】 大学会館3階 大集会室

##### 【5. 日程】

1回目	13 .. 00	13 .. 10	13 .. 40	13 .. 50		14 .. 30	14 .. 45	14 .. 55		15 .. 20	15 .. 30
開 会 行 事	全体指導	休 憩	グループ活動			休 憩	グループ活動	閉 会 行 事			
2回目	16 .. 00	16 .. 10	16 .. 40	16 .. 50		17 .. 30	17 .. 45	17 .. 55		18 .. 20	18 .. 30
	・活動時間の確認 ・基礎体験活動の活動状況	基礎体験活動発表会 アドバイザーの助言					振り返り				

##### 【6. 内容】

- (1)開会行事 【10分】

①挨拶（教育支援センター長の話）

②趣旨・日程説明

(2)全体指導 【30分】

①活動時間の確認及び手続きについて

②基礎体験活動の活動状況について（1年生の傾向等）

(3)グループ活動

①基礎体験活動発表会 【40分】

○グループ活動の進め方について。

○自己紹介。グループごとに司会者を決定。

○全員が、これまでの体験活動内容やそこから得た学び・課題を発表し合う。

○体験活動を積み重ねることの意義について話し合う。

②上級生アドバイザー（4年生）からの助言 【15分】

○より意欲的な参加に向けて具体的な助言を聞く（体験活動発表内容も参考にして）。

(4)本セミナーの振り返り 【25分】

①上級生アドバイザーの話を受けて、全員が振り返りを発表し、グループで今後の活動の見通しや取り組みについて話し合う。【15分】

②今後の活動に向けてグループ代表者の発表 【10分】（1グループ1分程度×6グループ選出）

(5)閉会行事 【10分】

○まとめ・諸連絡・アンケート回答



スタートアップセミナーグループ協議の様子



スタートアップセミナー感想発表の様子

以下、教職員の振り返りと学生の感想から本セミナーの成果を示す。

教職員の振り返り（一部抜粋）

○上級生アドバイザーによるプレゼンが導入され、体験活動の具体的な内容、意義を視覚的に伝えられたことが良かった。

○GWで自分の持ち時間をしっかり語りきれるようアドバイザーにタイムマネージメントをしてもらったので、一人一人がしっかり語る経験になったと思う。

○最初、精神的な距離感があったが、上級生アドバイザーの存在もあり、次第に距離が縮まった。

学生の感想（一部抜粋）

- 上級生アドバイザーの方からの話を聞いて、新しいことに挑戦することをこれからやつていこうと思った。今までの活動は学校現場に行って学習支援をするものばかりなので、イベントの運営などもしていきたいと思った。
- 班の皆の体験活動の内容や課題点を聞き、自分に足りないところや反省点を見つけることができた、また、体験活動を通して教師力のどの部分をどのようにして伸ばしていくべきかということについて考えることができた。
- 先輩のこれまでの活動や感想を聞いて、子どもたちのどこを見ているのか、教師の工夫しているところなど、自分とは全然視点が違うと感じた。

④ 1・2年生基礎体験交流会

本セミナーは、基礎体験活動（選択）について、同学年だけでなく他学年との交流を通して振り返り、今後の活動へのより良い見通しをもつことを目的として行った。詳細は以下のとおりである。

1・2年生基礎体験交流会 2024 実施概要

【1. 目的】

- (1)個々の基礎体験活動の実績を振り返り、自己内省を促す。  
(2)同学年や他学年との基礎体験活動に関する情報交換を通して、多様な学びを共有すると共に、今後の体験活動に対しての意欲を高める。

【2. 対象】 1年生 136名 + 2年生 142名 計278名

【3. 日時】 令和7年1月30日（木）

- (1)1回目（A・Bクラス） 13:00～14:35  
(2)2回目（C・Dクラス） 14:55～16:30

※「学校教育実習Ⅰ」のグループをもとにした2学年合同の特別グループを編成。

※各回は24グループで構成し、各グループの学生数は5～6名。

※参加学生……出席とアンケート回答により2時間認定。

※不参加学生…補講（センター長挨拶の録画視聴、全体指導）とアンケート回答により1時間認定。

【4. 会場】 大学会館3階 大集会室

【5. 日程】

1回目	13 .. 00	13 .. 10	13 .. 30	14 .. 25	14 .. 35
	開 会 行 事	【研修1】 基礎体験活動の 実施状況等	【研修2】 これまでの実施状況や学び等 についての情報交換等	ま と め	
2回目	14 .. 55	15 .. 05	15 .. 25	16 .. 20	16 .. 30

## 【6. 内容】

### (1)開会行事 【10分】

- ①挨拶（教育支援センター長の話）
- ②趣旨・日程説明

### (2)研修1 【20分】

基礎体験活動の実施状況、ルール・マナー、注意事項、学内資格認定等（説明）

### (3)研修2 【55分】

これまでの基礎体験活動の実施状況や学び等についての情報交換等（フリップトーク）

- 説明・自己紹介・司会選出

#### ○情報交換

- ①取り組んできた体験活動、印象深い体験活動&理由
- ②身に付いたと思う「10の教師力」、身に付けたい「10の教師力」とこれから
- ③フリートークタイム

### (4)まとめ・振り返り、諸連絡 【10分】

感想発表、諸連絡



基礎体験交流会全体指導の様子



基礎体験交流会グループ協議の様子

以下、教職員の振り返りと学生の感想から本セミナーの成果を示す。

#### 教職員の振り返り（一部抜粋）

- 3コマと4コマという短時間ながら、予定時間どおりに研修が進められ、有意義な交流会になった。
- 交流会でのアドバイスを受けて、交流会直後に学校体験に申し込みをしてくる学生が数名あり、意義を感じた。
- 本セミナーの目的の達成に向けて、グループ・個人へのサポート・指導はとても重要なと認識している。

#### 学生の感想（一部抜粋）

- 今回の交流会を通して、2年生の自分達からアドバイスをしたりすることもあれば1年の視点から学んだりすることもできた。前回は自分が1年生として参加する立場であったが、2年生として1年生と交流するなかで、これまで学んできた2年間の積み重ねから話をすることができ、自分自身の変化や成長を実感することができた。

○身につけた10の教師力と身につけたい10の教師力を発表した時に、1回生の身につけたい10の教師力と2回生が身につけた教師力が一致していて面白いなと感じた。それを見た時に、少しは1年間で成長することが出来たのかなと感じた。今回の気づきとしては、専攻に分かれてからはその教科の知識や技能を身につける活動は多く行っているけど、反対に社会などに参加する活動にはあまり参加出来ていなかつたなということである。1回生では沢山地域に出た活動をしていたから、3回生になつたらバラエティーにとんだ活動に参加したい。

○今回一緒にいた2回生の方が運営や企画を通してついた力や経験などについて話され、私はこれまでサポート的なことしかしたことなく、あまり運営や企画などをしてこなかつたので、そういう一からつくる経験や自分がリーダーとなって取り組む活動に取り組んでみたいと思うようになった。時間数は順調だとおもうので、資格認定制度のことも視野に入れて時間数より取り組む内容を重視して活動していきたいと思う。

## ⑤ 充実期セミナー

本セミナーは、2年生を対象として行う基礎体験セミナーである。入学してから1年半が経ち、学業も生活も充実してきた機会を捉えて、基礎体験活動について改めて見つめ直す場面を設定した。詳細は以下のとおりである。

### 充実期セミナー 2024 実施概要

#### 【1. 目的】

- (1)基礎体験領域でねらう資質・能力の視点から、これまでの取り組みを分析し、他者と比較しながら各自の成果と課題を明らかにする。
- (2)グループ協議により、基礎体験への意欲の違いや考え方について明らかにするとともに、基礎体験がより充実・拡大していくような意欲づけを行う。

#### 【2. 対象】 2年生全員 142名

※上級生アドバイザー（4年生） 12名

#### 【3. 日時】 令和6年9月26日（木）

- (1)1回目（A・Bクラス） 13:00～14:20
- (2)2回目（C・Dクラス） 14:55～16:15

※「学校教育実践研究Ⅰ」のグループを活用。

※各回は12グループで構成し、各グループの学生数は5～6名。

※参加学生……出席とアンケート回答により2時間認定。

※不参加学生……補講（センター長挨拶の録画視聴、全体指導、グループ協議）とアンケート回答により1時間認定。

#### 【4. 会場】 大学会館3階 大集会室

## 【5. 日程】

1回目	13 .. 00	13 .. 05	13 .. 25		14 .. 20	14 .. 30
	開会行事	全体指導	グループ協議・振り返り	閉会行事		
2回目	14 .. 55	15 .. 00	15 .. 20		16 .. 15	16 .. 25

## 【6. 内容】

### (1)開会行事 【5分】

- ①挨拶（教育支援センター長の話）
- ②概要説明

### (2)全体指導 【20分】

- ①趣旨説明
- ②基礎体験領域における実施状況

### (3)グループ協議・振り返り 【55分】

- ①アイスブレイク
- ②これまでの活動で得たこと・課題
- ③上級性アドバイザーの実践発表・意見交換
- ④今後の取り組み姿勢発表
- ⑤代表発表（3人選出）

### (4)閉会行事 【10分】

- まとめ・諸連絡



充実期セミナーグループ協議の様子



充実期セミナー上級生の実践発表の様子

以下、教職員の振り返りと学生の感想から本セミナーの成果を示す。

教職員の振り返り（一部抜粋）

○上級生アドバイザーによるプレゼンが導入され、体験活動の具体的な内容、意義を視覚的に伝えられたことが良かった。

- 上級生アドバイザーが入ることで緊張感が生まれ、真剣な議論が交わされていた。
- 印象に残った活動の発表で、経験談に留まる発表が多いように感じた。何があって、何を感じて、どう行動したかなど、その経験から得られたことを具体的に話すと、もっと議論が深められたと思う。

学生の感想（一部抜粋）

- 他の学生はどのような活動をしているか、そこで何を学んでいるなどを共有するとともに、それに対しての上級生のアドバイスなどで、多くのことを学べる良い時間だったと思う。他専攻や先輩と関わることは、これから教員になっていくうえで大切なコミュニケーションの場だと考えているので、このようなセミナーは非常にありがたいと思った。
- 今回のセミナーを通して、自分以外の人の活動や活動内容などを具体的に知ることができ、深い学びになった。また上級生アドバイザーのお話を受けて、様々な種類の体験に参加することや継続して参加することの重要さを知ることができ、これらの活動に活かしていきたいと感じた。
- 自分が参加してきた活動を改めて振り返る機会となり、今の自分にどのような課題があるのかを考えたり過去と比較して現在の自分がどれくらい成長したかを実感したりすることができたのがよかった。また、同級生と体験したことの共有したり先輩の話を聞いたりして、まだ自分が参加したことない体験活動に興味が湧いた。

## ⑥ 応用期セミナー

本セミナーは、3年生を主対象とし、加えて前年度未参加者も対象として実施した。基礎体験活動に対する成果と課題を明らかにするとともに、よりよい進路決定に向けてこれから取り組むべきことを具体的に考える機会となるよう設定した。詳細は以下のとおりである。

### 応用期セミナー 2024 実施概要

#### 【1. 目的】

- (1)基礎体験活動の実際を踏まえ、一人一人がこれまでの体験時間を確認し、基礎体験活動に対する成果と課題を明らかにする。
- (2)ここまで活動を振り返って今後の大学生活を展望するとともに、進路決定に向けての自己啓発を強く促す。

#### 【2. 対象】 3年生全員 132名 + 前年度未参加者 17名 計149名

※上級生アドバイザー（4年生） 24名

#### 【3. 日時】 令和6年11月29日（金）13：15～16：00

※参加学生……出席と振り返りフォーム提出により3時間認定。

※不参加学生…補講（センター長挨拶の録画視聴、全体指導）と振り返りフォーム提出により1時間認定。

#### 【4. 会場】 大学会館3階・2階

## 【5. 日程】

13	13	13	13		15	15	15	16
..	..	..	..		..	..	..	..
15	25	35	50		10	20	50	00
開会行事	全体会指導	グループ協議1	プレゼンテーション (15分×4回)	休憩	グループ協議2	閉会行事		

## 【6. 内容】

### (1)開会行事 【10分】

- ①挨拶（教育支援センター長の話）
- ②趣旨や日程等の説明

### (2)全体指導 【10分】

基礎体験活動の活動状況について

### (3)グループ協議1 【15分】

自己紹介も含め、これまでの基礎体験活動等を通し、自分にとっての「成果と課題」について発表し合う

### (4)プレゼンテーション 【80分】

- ①プレゼンテーションについての説明 【5分】
- ②プレゼンテーション 【75分】

	ブース①	ブース②	ブース③	ブース④
1回目	島根県小学校	広島県中学校	鳥取県中学校	島根県中学校
2回目	岡山県小学校	島根県特支枠	鳥取県小学校	//
3回目	島根県小学校	広島県中学校	鳥取県中学校	//
4回目	//	大阪府中学校	鳥取県小学校	岡山県小学校

	ブース⑤	ブース⑥	ブース⑦	ブース⑧
1回目	島根県中学校	大学院	民間企業	民間企業
2回目	高等学校	公務員	//	//
3回目	兵庫県中学校	大学院	//	//
4回目	高等学校	公務員	//	//

※進路の内定を得た4年生24名が上級生アドバイザーとなり、8か所ブースを設け、1回あたり発表10分+質疑5分のプレゼンテーションを4回実施。

### (5)グループ協議2 【30分】

現在考えている進路と志望理由、今後の準備・対策等について分からぬことや困っていること等について意見・情報を交換し合う。適宜、上級生アドバイザーから助言をもらう

(6)まとめ・諸連絡【10分】

①まとめ

参加学生4名による感想発表と、上級生アドバイザー1名から激励のメッセージ。

②諸連絡



応用期セミナー上級生アドバイザープレゼンの様子



応用期セミナーグループ協議の様子

以下、教職員の振り返りと学生の感想から本セミナーの成果を示す。

教職員の振り返り（一部抜粋）

- 多くの3年生がしっかりとした意識をもってセミナーに取り組めていた、上級生アドバイザーのプレゼンテーションにもそれぞれに工夫が凝らされていて、4年生として頼もしい発表だった。
- 3年生にとっては実にタイムリーな時期に行われる基礎体験セミナーになるので、現行の目的・内容を大きく変える必要性はないと思う。来年度も同様に進められることが望ましいと感じる。
- 大学院の教員から一貫プログラムの説明があったこともタイムリーで良かったと思う。もしあれば、現役院生から体験談を交えた説明であったならば、より身近に感じられて志望者が増えるように感じる。

学生の感想（一部抜粋）

- 先輩方の話を聞くと、正直とても焦りを感じた。先輩方は行動が早く、早期から就活をスタートさせていた。自分はなかなか始めることができず、最近になって説明会等に参加しているので焦りを感じた。なので、これからはもっと積極的に説明会やインターンシップ等に参加をし、自分が何をしたいのかをはっきりさせ、後悔のない就職活動をしていきたい。
- 先輩から就活のスケジュール感や取り組み方を聞き、ビジョンを描くヒントを得ることができた。また、自身が就活をしている中で不安に感じていることを相談することができ、少し安心することができた。卒業後の姿を想い描き、より適切に行動していく良い機会になったと考える。
- 今回のセミナーでは、教職大学院への進学の話を中心に聞き、自分の将来像について、より具体的な実態を持つ事ができた。教職には就きたいが、今まで教員になることへの不安等の話をアドバイザーの方に聞いていただき素敵なアドバイスをいただくことができた。今回のセミナーで得た将来への具体的な将来像から不当に逸れることがないように残りの期間を過ごしたい。

## ⑦ 発展期セミナー

本セミナーは、4年生を主対象とし、昨年度の未受講者も加える形で実施した。「基礎体験活動と自分、そしてこれからを考える」をテーマに、1000時間体験学修における基礎体験領域での学びを総括する機会として位置づけた。詳細は以下のとおりである。

### 発展期セミナー 2024 実施概要

#### 【1. 目的】

<1000時間体験学修における基礎体験領域での学びの総括>

一人一人がこれまでの体験時間を確認し、基礎体験活動に対する成果と影響度を協議することを通して、自分自身の学修について査察する契機とする。

テーマ「基礎体験活動と自分、そしてこれからを考える」

【2. 対象】卒業年次生全員 126名 + 過年度生 10名 計136名

【3. 日時】令和6年9月24日(火) 13:00 ~ 14:20

※「学校教育実践研究Ⅰ」のグループを活用。

※各グループの学生数は5~6名。

※参加学生……出席とアンケート回答により2時間認定。

※不参加学生…補講（センター長挨拶の録画視聴、全体指導、グループ協議）とアンケート提出により1時間認定。

【4. 会場】大学会館3階 大集会室

#### 【5. 日程】

1回目	13 .. 00	13 .. 05	13 .. 15	13 .. 25	14 .. 10	14 .. 20
開会行事	全体指導  ・趣旨説明 ・基礎体験活動の実施状況	グループ協議  ・プログラムの説明 ・アイスブレイキング	振り返りとディスカッション  ・思い入れのある活動 ・身につけることのできた「10の教師力」 ・今後どう活かしていくか	ま と め		
2回目	14 .. 55	15 .. 00	15 .. 10	15 .. 20	16 .. 05	16 .. 15

#### 【6. 内容】

##### (1)開会行事 【5分】

○挨拶（教育支援センター長の話）

##### (2)全体指導 【10分】

①趣旨説明

②基礎体験活動における実施状況

##### (3)グループ協議（全員参加型ディスカッション）【55分】

テーマ「基礎体験活動と自分、そしてこれからを考える」

①プログラムの説明とアイスブレイキング

②振り返りとディスカッション

ア 思い入れのある活動への振り返り

イ 身につけることのできた「10の教師力」の振り返り

ウ 基礎体験活動を今後どのように活かしていくか

(4)閉会行事【10分】

○まとめ



発展期セミナーグループ協議の様子



発展期セミナー感想発表の様子

以下、教職員の振り返りと学生の感想から本セミナーの成果を示す。

教職員の振り返り（一部抜粋）

- テーブル無しの円形でも会場に窮屈さは感じなかった。距離が近い分、この方式で良いかもしれない。（且つ、準備も楽）
- 卒業年次生は12月末をもって時間認定を終えることから、この時期セミナーを開催することはとても重要だと思う。
- 「身につけることのできた10の教師力」の発表の際、理由が後回しであったため、時間を持て余している班が散見された。（「○○の体験活動を通して、○○が身につきました」で話が終わってしまっている）

学生の感想（一部抜粋）

- 1年生のころから多くのセミナーに参加してきた、多くの人が1000時間体験学修の中で、自分自身の学びや成長を得ることが出来ていることを改めて知ることができ、私自身も「もっと頑張ろう」と思える時間にすることができた。この4年間での学びの数々を振り返ることができたのはとても有意義だった。
- 馴染みのあるメンバーで話し合いができる、終始円滑に楽しく有意義な時間を過ごせたと思う。前回集まって基礎体験活動のことを話した時よりも個人個人の進路に沿った考え方方に変わっており、お互いに深みのある意見交換ができたと思う。また色々な活動を知ることが出来たため、自分もこれから色々また参加したいと思う。
- 初めのグループと同じメンバーでやったため、みんなの成長を感じられてよかったです。自分が全く参加してこなかった分野の活動に参加している人の話を聞くことで、あと少しの時間ではあるが挑戦的な活動にも参加してみたいと思うきっかけになった。

(3) だんだん塾講演会

今年度は、教育センター演習「だんだん塾特別講義」を4回実施した。講師は、小学校・中

学校の教諭、島根県教育センター指導主事、教科書会社担当者、映画監督、キャリアコンサルタントなど多様な職種の方から、「学校教育の現状と課題」、「ふるさと教育のあり方」、「キャリア教育の実践的な課題」について講義していただいた。

参加学生は主体的に取り組み、講師との質疑なども意欲的に行っていった。

**【表4】だんだん塾講演会の開催実績**

回数	日時	講演者	講演テーマ	参加人数
第1回	6月26日（水） 13：50～16：00	安来市立荒島小学校 教諭 小竹 凜香 氏 松江市立美保関中学校 教諭 上田 華乃 氏 島根県教育センター 指導主事 仙田 浩志 氏	教師1年目、2年目…そしてこれから～現場の先生からのメッセージ～	5名
第2回	8月2日（金） 13：40～15：30	東京書籍 中国支社 第二営業課係長 牛黃薗 剛 氏	教科書（小学校）の「デジタル教材」を活用した授業のあり方を探る	9名
第3回	12月25日（水） 14：55～16：35	護縁株式会社 映画監督 錦織 良成 氏	映画監督から見たふるさと教育	7名
第4回	2月20日（木） 13：35～15：05	Office Sou キャリアコンサルタント 森山 和子 氏	基礎体験活動や採用試験などに活きる様々な接遇（せつぐう）のあり方	8名

#### 第1回の実施状況



#### 第2回の実施状況



#### 第3回の実施状況



#### 第4回の実施状況



#### (4) 教育支援センター演習

本演習は、昨年度まで、学年により新型コロナウィルス感染の影響を受け活動時間数が十分確保できない状況を鑑み、学内で参加できる基礎体験活動として開設していた取り組みである。

今年度は、新型コロナウィルス感染の収束を鑑み、以下の演習を開設し、内容の整理・縮小（「学習指導案づくり」は廃止）したうえで、講義・講話を聴いて（視聴して）レポートを作成して教師力を高めていく取り組みとしてスタートした。

##### ① 「だんだん塾特別講義」

- これまでのだんだん塾の模様を収めた動画（表5）を視聴しレポートを作成
- 活動時間として、3時間×受講回数を認定
- 動画内には児童や生徒等についての個人情報が含まれるため、情報モラルに則り、「収集した個人情報はむやみに利用しないこと」、「第三者に提供したりしないこと」、「誹謗中傷等しないよう心がけること」以上3つの観点から、取り扱いには十分注意
- 動画1本につき1回のレポート提出が原則

※対面で開催する「だんだん塾特別講義」に参加し、レポートを提出した場合は、5時間の認定

##### ② 「学校現場概論」

- 学校現場経験者との自由な語り合い  
(学校現場で求められている力や教職の魅力、学校現場の課題、学級経営のノウハウ、生徒指導、保護者対応等について)
- 教員採用試験や基礎体験活動等についての質疑・応答
- 添付の担当者一覧（ ）にある項目「主なジャンル」から、興味を持った担当者を選択し、受講
- オンラインミーティングや対面型等希望に応じて実施
- 1回につき45分間程度の受講時間。（1回につき5時間+αの認定）
- レポート提出 上限なし
- 指定のレポート様式（文字数の基準：400字以上）を使用する

次に、今年度の実施状況を以下に記す。

##### ① だんだん塾特別講義（全学年対象）…動画視聴後のレポート

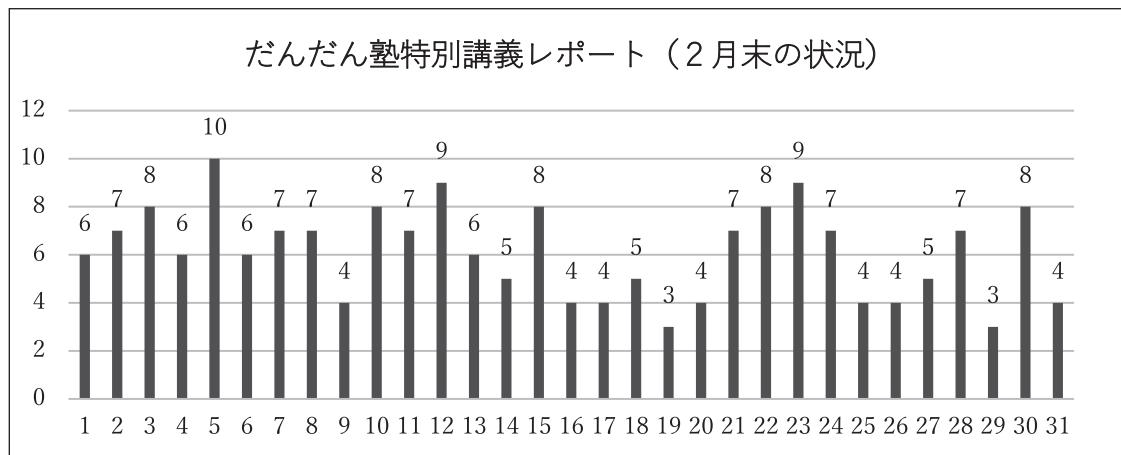
1月の段階で動画視聴できる内容をまとめると次のようになる。

【表5】だんだん塾特別講義一覧（テーマのみ）

No.	テーマ
1	学級経営 ~グループからチームへ~
2	教職を目指しているみなさんへ
3	教育現場の実践とやりがい ~魅力にあふれる教師になるために~
4	アドラー心理学からみた教育現場への提言
5	主体的・対話的で深い学びのためのICT利用・活用
6	少し未来の学校 ~新学習指導要領とふるさと教育・教育の魅力化~
7	解決志向アプローチを活かした未来の教室
8	現場校長から大学生へのメッセージ ~教師を目指す皆さんへ伝えたいこと~
9	この世で最も素晴らしい仕事 ~私が出会った3つの衝撃から
10	甘えとストレス ~スマートな大人になるためのチェックポイント~
11	松江市の特別支援教育の状況・そして子どもたち
12	大学時代に学んだことは社会に出てから ~1000時間体験学修の意義~
13	現場で即戦力として活躍するために ～今、見ておくこと、そして、すべきこと、現場校長の視点から～
14	『学習に向かう力を育てる体つくり』の実践から
15	保護者とのほっとコミュニケーション
16	学びに困難を抱える児童生徒をどう理解し、育成していくか
17	へき地校（小規模校）の学校運営について
18	～未来の先生のために～ 学級づくり
19	学び合い支え合う集団づくり ～人間関係づくりの必要性を理論や実践から学ぶ～
20	教育現場の実務と基礎体験活動のつながり
21	めざせ！教職
22	社会人に向けてステップアップ！ ～就職活動に係る面接試験の接遇や教員採用試験に向けた基礎知識等から学ぶ～
23	保健室から見えてくる学校の今
24	GIGAスクール構想やICT活用の具体内容を学ぶ ～教育行政や学校現場での取組を通して～
25	仕事ってなんのためにするの？
26	自分を変える ～接遇スキルを強い味方に！～
27	いじめの未然防止につながる人権教育
28	アルゼンチン日本人学校から見た日本と教育
29	教育実習や基礎体験活動等に役立つロジカルシンキングとは
30	保護者と信頼関係をつくる懇談のために
31	生徒指導の現状と対策 ～取組の光明と心得～

上記の内容を視聴し提出されたレポート（2月末現在）の総数は190本（延べ62人）となった。

テーマごとに提出されたレポートをまとめると次のようになる。



【図2】だんだん塾特別講義レポートの提出状況  
(縦軸レポート数. 横軸テーマのナンバー)

ひとつの内容ごとに、平均約6.1本のレポートが提出されており、昨年度より2.0本増加した。No.5のレポートが10本と、今年度は一番多くレポートが提出された。

## ② 学校現場概論「学校現場経験者の先生と語り合おう」(全学年対象)

令和3年度より、教職大学院及び学部附属教師教育研究センターと連携し、対応できる教員数を増やして体制を整えている。

【表6】学校現場概論「学校現場経験者の先生と語り合おう」担当者等一覧

	担当者（所属）	これまでの主な勤務校（主な専門分野）
1	錦織 稔之 (教員支援センター) nishikori-t@edu.shimane-u.ac.jp	中学校 (社会科、ふるさと教育、博物館連携、進路指導、特別支援教育)
2	村尾 美幸 (教員支援センター) muraomi1216@edu.shimane-u.ac.jp	小学校 (児童理解、保護者対応、仲間づくり、特別支援、学級経営)
3	上代 裕一 (教員支援センター) y-jodai@edu.shimane-u.ac.jp	中学校（生徒指導（AD理論）、学級経営（QUの活用）、危機管理（クレーム対応）、教育相談（ブリーフカウンセリング）、部活動、保健体育）
4	飯島 仁 (教員支援センター) iijima@edu.shimane-u.ac.jp	小学校、中学校（学校安全、学級経営、保健体育科教育、児童生徒理解、学習指導案（道徳、学級活動））
5	小橋 達也 (教員支援センター) kobashi@edu.shimane-u.ac.jp	高等学校、特別支援学校 (国語科教育、進路指導、キャリア教育、生涯学習、教育相談)

6	吉崎 朗 (教職大学院)	小学校 (教科教育、学級経営、生徒指導、保護者対応、児童理解)
	yoshizaki@edu.shimane-u.ac.jp	
7	松尾 直樹 (教職大学院)	小学校、中学校 (学校経営、学級経営、教科教育、危機管理、教育法規)
	matsuonaoki1964@edu.shimane-u.ac.jp	
8	福島 美菜子 (教職大学院)	特別支援学校 (特別支援教育、教育相談、学校経営)
	mena3838@edu.shimane-u.ac.jp	
9	藤原 建 (教職大学院)	中学校 (生徒指導、保護者対応、保健体育)
	fujihara_tk@edu.shimane-u.ac.jp	
10	安野 洋 (教職大学院)	中学校 (教科教育、学級経営、部活動、青少年の健全育成)
	yasuno-hiroshi@edu.shimane-u.ac.jp	
11	吉田 博幸 (教師教育研究センター)	小学校 (体育、学校経営)
	hyoshida@edu.shimane-u.ac.jp	
12	長岡 素巳 (教師教育研究センター)	中学校・高等学校 (生徒理解と集団づくり、社会科(中学校)、地歴・公民科(高校))
	mnagaoka@edu.shimane-u.ac.jp	

学校現場経験者の教員との対話を終え、学生から提出されたレポート数はわずか5本であった。

学校現場概論を申し込む学生は、自己課題をもちらながら積極的に教員と対話を行い、レポート作成などで振り返ることができる。しかし、昨年度より4本増えたものの、引き続き広報などが十分でないことが影響し、希望者がいない状況だった。一方、3年生の終わりから教員採用試験等就職に関する相談数が増加しており、その中で、それぞれの教員から専門とするジャンルに関しての内容理解を深めている状況もうかがえる。今後とも、適切な時期の広報等を行い、学生の自己課題を追究していく機会を保障するように努めていこうと考えている。

教育支援センター演習については、「学習指導案づくり」を廃止したが、「だんだん塾特別講義」と「学校現場概論」については、活用状況がコロナ禍以前の状況に回復しつつあると言える。また、基礎体験活動の一環として学生に定着しているものと考えることができる。それぞれの学生の課題追究を深めたり、広げたりする機会として今後も工夫しながら継続していくよう努めていきたい。また、学生から提出されたレポートについては適宜、個別指導等を行い、学生的教育への認識が深まるようにしていきたい。

以下、学生の感想から本演習の成果を示す。

### 学生の感想（抜粋）

「だんだん塾特別講義」感想レポートから（「教員1年目、2年目…そしてこれから！～現場の先生からのメッセージ～」）

今回のだんだん塾では、教育センターの方や実際に現場に出ておられる先生方のお話を聞くことができた。

まず島根県教育センターの仙田さんのお話では、学級経営において重要である所を話してくださいり、将来に活用していきたいと感じた。学級経営では第一に子ども理解に努めることが重要であるとおっしゃられていて、私もとても共感できた。子ども一人ひとりの性格や特徴を理解することで今後の信頼関係が築かれていくなと思った。信頼関係を築くためには教員自らが子どものお手本となる行動や発言を心がける必要があり、子どもは常に教員を見ているため、教員自身が意識して生活する必要があると感じた。また現在では特別支援学級が配置されている学校もあるため、特別支援教育の視点も持つて、子ども理解に努めることも大切だと学んだ。さらにはめ方について、結果を見てほめ方を工夫するのではなく、学習や行動などの過程を重視したほめ方が主流となってきており、また言葉だけでなくジェスチャーなども交えたほめ方が大切とされてきていることが分かった。これまでの学級経営では教員を中心に様々な授業や活動を行ってきたが、現在では教員と子どもが対等な関係で、みんなでやっていく意識が強まっていることを話から学ぶことができた。

次に現場の先生方の話では小学校・中学校それぞれの視点からの話を聞くことができた。まず現在小学校で勤務されている小竹さんは教員として採用されてから1年目・2年目の違いや苦労などをお話してくださいり、自分が将来教員になった際の見通しが持てた気がする。また保護者対応で大変だったことや子どもと信頼関係を築く上で大切にしていることなども話してくださいり、自分の軸を大切にしているなと感じた。個人的に「今自分ができることを全力でやる」という言葉が印象に残っており、私自身教員採用試験に向けて勉強中であるため、この言葉通り今できることを精一杯やろうと思えた。

「だんだん塾特別講義」感想レポートから（「映画監督から見たふるさと教育」）

今回の講義は、映画監督の錦織良成さんから見た島根県の魅力や、錦織さん自身の経験から得た情報のあふれた社会での教訓などを聞いた。前半は日本の映画と世界の映画の違いから感じた情報モラルや情報リテラシーなどの重要性を学んだ。最初参加したときは、映画監督の方の経験と教育をどういう風にむすびつけて講義されるのかと思っていたが、映画監督として、世界の方や地元の方と接してきた中で感じられた経験や考えというのはとても興味深かった。

確かに、今の社会は情報にあふれていて、どう考へてもおかしい情報や、政治的にも偏っていると感じる情報、一見正しいと思われる情報など、情報があふれかえっている状況である。また、学校では「インターネットの情報は危険性が高いものが多く、テレビや新聞の情報は正しい。」というように習うが、現状テレビや新聞の情報が100%正しいというのはどうなのかとも感じる。そのような中で、情報の取捨選択をして、どれくらいまでメディアの情報を信じ、どこからは自分で調べたり、目で見て確かめたりすることが重要なのかということを改めて感じた。

## 2. 学内資格認定制度

教育支援センターでは、「体験学修ピア・サポートー」「学校教育サポートー」「コミュニティサービス・サポートー」の3つの学内資格を設定している。今年度の認定者は延べ16名であった。（【表7】参照）

【表7】学内資格認定者数

学内資格名	認定者数	学年別人数
体験学修ピア・サポートー	8名	3年生 2名
		4年生 6名
学校教育サポートー	4名	4年生 4名
コミュニティサービス・サポートー	4名	3年生 1名
		4年生 3名

## 3. 各受け入れ先との連携

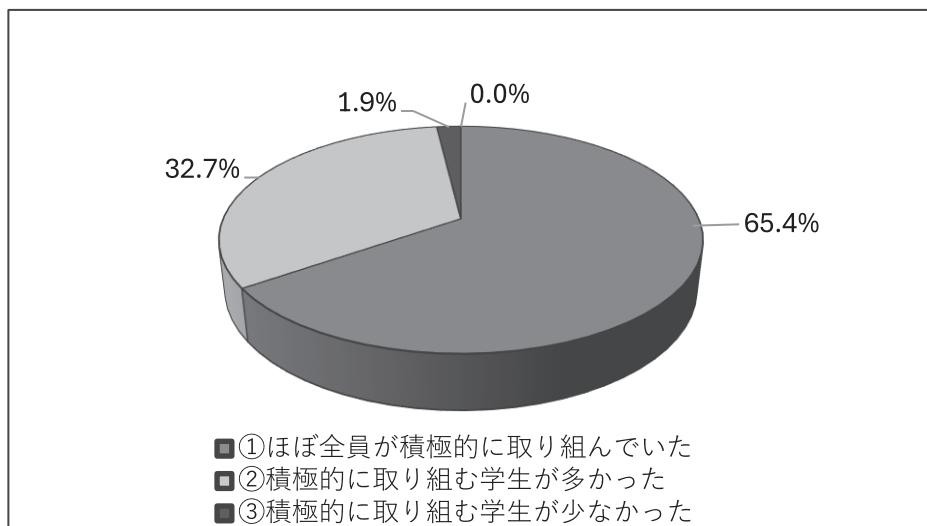
昨年度に引き続き「基礎体験活動連絡会議」を実施した。

実施に当たって、事前に今年度の取り組み状況などに関するアンケートを行った。また、「基礎体験活動連絡会議」の開催に当たっては、多くの受入団体が参加できるようにと、「米子会場」（3月3日開催）と「松江会場」（3月10日開催）に分けて行った。

### (1) アンケート調査結果

185団体にアンケート調査の依頼をし、130団体から回答（2月12日現在）があった。（回答率70.2%）

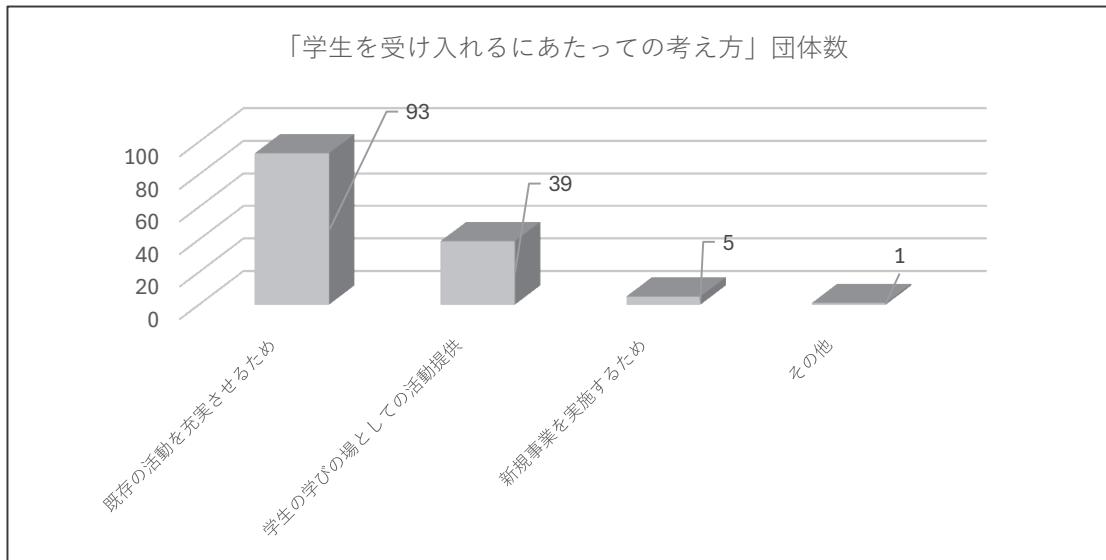
アンケート結果①「学生が体験活動に積極的に取り組んでいたかどうか」



【図3】アンケート結果①

「ほぼ全員が積極的に取り組んでいた」及び「積極的に取り組む学生が多かった」を合わせると98.1%となった。一方、「積極的に取り組む学生が少なかった」という意見も、わずかではある（1.9%）がみられることから、各学年のセミナーや個別の事中指導などの機会を利用し、個別へのサポートを図る必要があるものと考える。

アンケート結果②「学生を受け入れるにあたりどのようなお考えをお持ちでしょうか、お聞かせください」（複数回答可）



【図4】アンケート結果②

「既存の活動を充実させるための受け入れ」とするのが93団体、学生の学びの場としての活動提供」が39団体となっていた。

受入団体の既存の活動を一層充実することと、学生の学びの場としての活動機会の保障との両者の関係を保持していくことが、持続可能な地域社会へと繋がるとともに、学生の確かな「教師力」構成へと結びついていくようになると考える。

#### アンケート結果③自由記述より

回答の中で特に多かったのが、「連絡をしても、学生からの返答がない」というものであった。このことについては、かねてからの課題でもあり、各学年のセミナーや、事前・事後指導などにおいて指導を続けていることである。今後も、指導内容を工夫したり、学生が主体的に考えたりする機会をつくるなどして課題解決に向けて取り組むこととしたい。

## (2) 基礎体験活動連絡会議

米子会場（鳥取県立武道館）と、松江会場（島根県立美術館）の2会場で開催した。

## 【日程・内容】

13:00	13:45	14:00	14:20	14:45	14:55	15:25	15:50	15:55
準備・打ち合せ 45分	受付 15分	開会 20分 「あいさつ・意義経緯」	【説明】 「今年度の状況・課題」 25分	休憩 10分	学生発表（30分） ① 10分 ② 10分 ③ 10分	全体質疑 応答 25分	閉会 5分	

## 【米子会場】

20名の参加者があった。はじめに教育支援センター長から「基礎体験活動」の意義やこれまでの経緯などについて説明を行い、次に教育支援センタースタッフから今年度の状況や課題などについての説明を行った。

### ○学生発表について



「米子会場」においては3名の学生がそれぞれの体験を発表した。

- |                          |           |     |
|--------------------------|-----------|-----|
| (1) 「『やっぱ』基礎体験活動で気づいたこと」 | 保健体育科教育専攻 | 3年生 |
| (2) 「1000時間体験学修ならではの学び」  | 小学校教育専攻   | 3年生 |
| (3) 「学外のつながりについて」        | 特別支援教育専攻  | 3年生 |

## 【松江会場】

39名の参加者があった。はじめに教育支援センター長から「基礎体験活動」の意義やこれまでの経緯などについて説明を行い、次に教育支援センタースタッフから今年度の状況や課題などについての説明を行った。

### ○学生発表について



「松江会場」においては3名の学生がそれぞれの体験を発表した。

- |                          |           |     |
|--------------------------|-----------|-----|
| (1) 「基礎体験活動での成果」         | 小学校教育専攻   | 3年生 |
| (2) 「1000時間体験学修ならではの学び」  | 小学校教育専攻   | 3年生 |
| (3) 「『やっぱ』基礎体験活動で気づいたこと」 | 保健体育科教育専攻 | 3年生 |

学生の発表では、学んだこととして、やってみるとことの大切さ、状況に応じてアプローチを変えていくことの大切さなどが挙げられていた。また今後体験活動に活かしたいこととして、個々に応じた関わり方、明るい雰囲気を意識すること、積極的な情報共有、適切な難易度の設定などが挙げられた。

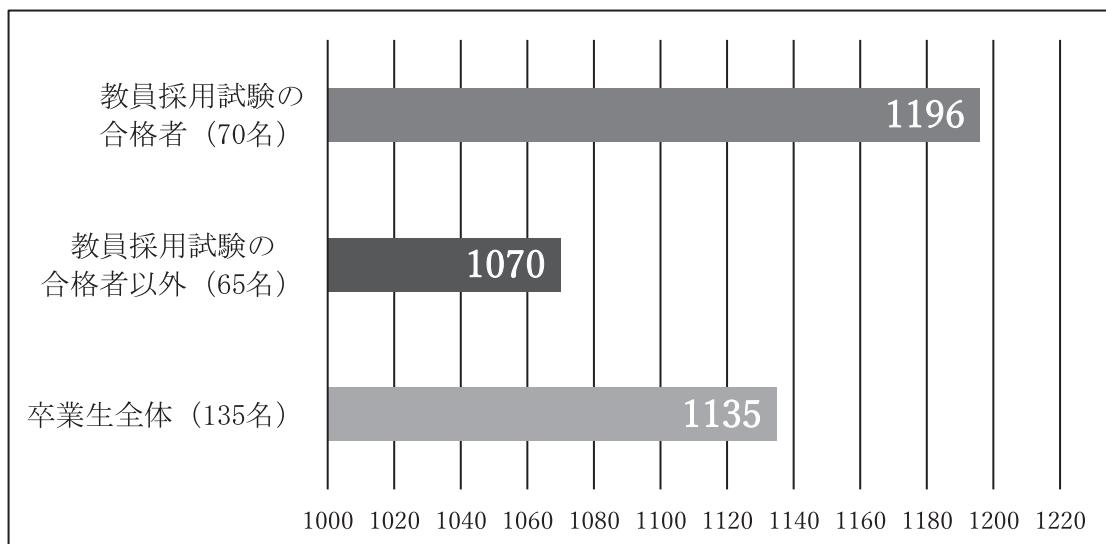
## III おわりに

令和5年度以降、新型コロナウィルスの感染症法上の分類が見直されたことに伴い、ようやく平常時の教育活動を推進できる状況に戻った。事業所連携という点においても、「基礎体験活動連絡協議会」「基礎体験活動合同説明会」が対面で実施できることにより、活動のよりいつ

その充実に向けて動き出す環境が整った。今年度は、カリキュラムの改訂という大きな転換期を迎えたが、学校教育体験活動を中心として、学生のニーズに応じて様々な学びの場を開拓した一年でもあった。「実習セメスターにおける学校教育体験活動」では、昨年度体験を実施した島根県立松江養護学校に加え、松江清心養護学校・松江緑が丘養護学校・出雲養護学校の4校での学校教育体験活動を実現した。また「鳥取県のエキスパート教員から学ぼう」では初の試みとして特別支援学校と特別支援学級の公開授業・研修会での学びの機会を設けた。このような特別支援教育に関わる活動の場の充実は、来年度以降の取り組みの重点の1つになろう。また、教員採用試験の実施時期が全国的に前倒しになる中で、令和7年度、島根県はこれまでより2ヶ月早い5月に1次試験が実施されることになった。教員採用試験に向けて3年生の後期の実習セメスターでいかに充実した体験を積んでいくのかは基礎体験領域において改善の余地が残されている。「実習セメスター（3年生後期）における基礎体験活動の実施状況調査」の結果を分析しながら、実習セメスターのよりよい充実を目指すとともに、1年生から4年生まで全ての学年の学生が実践を通して「学び続ける姿勢」を身につけられるよう、各必修セミナーの充実も図りたい。

【図5】に示した卒業生の平均体験時間数を見ると、今年度卒業生の平均体験時間数は約1135時間であり昨年度の約1120時間を上回った。一昨年は1115時間であったことからも、コロナ渦に受けた影響がなくなり、活動が活発化してきていることがうかがえる。さらに教員採用試験合格者70名の平均体験時間数は約1196時間に及んでおり、基礎体験活動を積み上げてきたことが教師力の育成に大きく寄与したであろうことは十分推察される。なお、総体験時間数の上位20名中19名が教員採用試験の合格者であり、1位の学生の総体験時間数は1989時間であった。

今後も我々教育支援センター教職員としては、子ども・地域・学校とのかかわりを通して実践的に学ぶ基礎体験活動のさらなる充実に努め、教員に必要な社会性や豊かな人間性を学生たちが身につけられるよう支援していきたい。



【図5】令和6年度卒業生の平均体験時間数